

(公社) 日本地震学会主催シンポジウム

「地震発生予測と大震法および地震防災研究」

日本地震学会 地震学を社会に伝える連絡会議

コンビーナ：深畑幸俊・酒井慎一

趣旨： 高度な観測網と解析技術の着実な進歩により、地震活動の変化や地震発生の原因に関わる地殻変動を詳細に捉えることができるようになりつつあります。一方で、その後の推移予測や大地震の発生につながるかどうかの判断は、研究者の経験と認識からも、地震が有する不確実性の観点からも、大変難しい課題です。現在、南海トラフ沿いの大規模地震の発生予測可能性と防災対応の検討が進められる中、学会員からは「大震法に定められた、地震予知情報に基づく防災対応シナリオはこのままで良いのか？」との問いかけや、大震法への直接の批判の声があがっています。地震研究者として避けて通ることのできない、「地震予知・予測」という重要課題に対し、事実関係と論点を整理するとともに、地震災害軽減と人命を救う観点から、地震研究者は何をすべきかについて考えます。

日時： 2017年6月17日(土) 午後13時～17時55分(予定)

場所： 東京大学地震研究所1号館セミナー室

(定員80名：申し込み先着順)

* 6月9日まで参加申し込みをお済ませください。

定員超過の場合は隣室に中継予定です

対象： 日本地震学会会員・一般の方

☆ プログラム ☆

○ 開場・受付 12:30-

○ 開会 13:00

開会挨拶・趣旨説明 古村孝志(東京大学地震研究所) 13:00-13:05

○ 第1部：招待講演(13:05-15:50)

座長：酒井慎一(東京大学地震研究所)

平田直(東京大学地震研究所) 13:05-13:35

「大規模地震対策特別措置法(大震法)とは何か？」

泊次郎(元朝日新聞) 13:35-14:05

「大震法の成立過程の問題点と大震法の弊害」

— 休憩 14:05-14:20 —

松浦律子（地震予知総合研究振興会） 14:20-14:50

「地震発生予測と大震法とのあるべき関係」

堀 高峰（海洋研究開発機構） 14:50-15:20

「地震発生予測研究の現状と展望」

矢守克也（京都大学防災研究所） 15:20-15:50

「地震リスクのインフォメーションとコミュニケーション」

— 休憩 15:50-16:10 —

○ 第2部：パネルディスカッション(16:10-17:45)

「地震発生予測と大震法および地震防災研究」

司会： 深畑幸俊（京都大学大防災研究所）

パネリスト：太田雄策（東北大）・加藤愛太郎（東大地震研）

・ 馬場俊孝（徳島大）・山岡耕春（名古屋大）

・ 橋本学（京大防災研）・岩田孝仁（静岡大）

○ 閉会挨拶 17:45- 17:55 山岡耕春（名古屋大学）

☆ 参加申込・問い合わせ先：

日本地震学会事務局（zisin@tokyo.email.ne.jp; 03-5803-9570）